

第64回 公開講座

ハンセン病問題にみる排除と隔離について

— 無癩県運動を中心に —

日時 2010年11月26日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 宮前 千雅子（委嘱研究員）

日本の歴史において、ハンセン病者は長い間、差別の対象であった。前近代では宗教観や疾病観、そして身分制などを前提として賤視や排除の対象となっていた。近代科学によって病原菌による慢性感染症であることが明らかにされるが、20世紀以降は、「癩予防二関スル件」や「癩予防法」という法的背景のもと、ハンセン病療養所に隔離収容することがハンセン病者の第一義的なあり方とされていく。本発表は、近代以降の「無癩県運動」に焦点を絞り、ハンセン病者への排除と隔離のあり様を明らかにしようとするものである。

ハンセン病者のいない道府県を目指す「無癩県運動」は、財団法人癩予防協会を中心に、日本MTL（Mission to Lepers、キリスト教者によって設立された救癩協会）や仏教会、財閥などを巻き込みながら展開された「癩病根絶」の全国的運動として、その隔離収容の要となった。さまざまな団体とともに、市民一人ひとりもそれに加担してしまった歴史がある。

無癩県運動は戦後も継続された。優生思想の強化された優生保護法のもと、ハンセン病者の不妊手術や人工妊娠中絶が積極的に行われていく。これまでの研究でその総数は明らかにされてきたが、その圧倒的多数が女性の病者を対象にした手術であったことは、長らく等閑視されてきた。そのジェンダー差とともに、今回新たに入手した資料から読み取ることのできる事象も、本発表で明らかにしていきたいと考えている。

昨年の2009年は、日本に公立のハンセン病療養所が設立されて100年という節目の年であった。また同年4月にはハンセン病問題の解決の促進に関する法律（通称、ハンセン病問題基本法）が施行されるなど、日本社会はようやくハンセン病問題解決のスタートラインに立ったということもできる。関西大学の立地する大阪府には、1909年に設置された五つの公立療養所のひとつ、外島保養院が存在した。外島保養院は、その後の移転問題や台風による壊滅など、近代日本社会におけるハンセン病問題を象徴する療養所である。

ハンセン病問題における排除と隔離の歴史は、ここ大阪にきっちりと刻まれなければならない歴史である。

* * *

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。
手話通訳が必要な場合は、11月18日(木)までに人権問題研究室へご連絡ください。



THINK×ACT
KANSAI
UNIVERSITY

関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車
Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>